

佐渡米通信

こめへる

2026年 5月号

発行日:2026年5月

発行：佐渡農業協同組合 担当：JA 佐渡 営農振興部 販売企画課
jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

なつひめ栽培いよいよ始まる!!

3月下旬に、令和8年産より一般栽培が始まる、なつひめ栽培説明会が開催され、生産者・佐渡地域振興局など15名が参加しました。一般栽培の初年となる令和8年産の作付面積は新潟県全域で約400haを予定しており、そのうち島内では12名の生産者が6.5haの面積で栽培する予定です。この説明会では佐渡農業普及指導センターよりなつひめの栽培上の特長として、低水温で種を浸す場合は発芽不良に繋がるため注意が必要なことや田植え時には株数に留意すること等が説明されました。



なつひめの栽培方法に関する説明に耳を傾ける生産者の様子

令和8年度佐渡米生産者大会で確認

～気象変動に負けない米づくりで“おいしさ”と“みばえ”が光る佐渡米を消費地に届けよう～

3月中旬に、令和8年度の佐渡米生産者大会が開催され、生産者・関係者総勢230人が参加しました。この大会は初期生育の確保や収量・品質向上のための適切な穂肥について学ぶとともに、販売先が佐渡米に求めていることを共有し、産地一体となって「おいしさ」と「みばえ」を兼ね備えた佐渡米づくりの実践につなげることを目的に行われました。

コープデリ生活協同組合連合会の部長 井上桂一様より「佐渡米の評価と産地に望むこと」と題してご講演いただき、消費者である生協組合員からの佐渡米に対する評価をはじめ、おいしい佐渡米を年間通して安定供給することが重要ということや生産者と消費者のお互い顔が見える産直の取り組みの重要性についてお話いただきました。

続いて、「令和7年度おいしい佐渡米コンテスト」の表彰式が行われました。最優秀賞を受賞した本間清さんより、葉緑素計 (SPAD) を活用した生育診断による米づくりや、アミノ酸やカルシウム等のミネラル資材を用いた土づくりの実践例を紹介いただきました。

その後、JA佐渡の営農指導員が昨今の高温が続く気温でも品質低下を防ぐための窒素施肥の重要性や、倒伏にくい出穂直前の追肥技術、鉄やケイ酸等の資材を活用した初期生育の確保策を提案しました。当日は佐渡産コシヒカリと他産地の食味が良いとされるお米を使用したおにぎりが配布され、参加された生産者は他産地のお米のレベルの高さを感じるとともに、初期生育をしっかり確保し収量・品質向上に向けて取り組みたいと意気込んでいました。



佐渡米販売先のコープデリ生活協同組合連合会の部長 井上桂一様よりご講演いただいている様子



佐渡米を食べている皆様から生産者へのメッセージが会場で紹介されている様子



当日配付されたおにぎり(佐渡産コシヒカリ、魚沼産コシヒカリ、ゆうだい21)

温湯消毒 春耕耘 苗づくり 田植え 水管理 中干し 穂肥 稲刈り 秋耕耘 ふゆみずたんぼ

